会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第1委員会室
		担当職員	坂田
日 時	平成26年9月30日(火曜日)	開 議	午前 10 時 07 分
		閉 議	午前 10 時 22 分
出席委員	立花 眞継 苗村 酒井 井上 藤本 西口 竹田		
事務局	坂田		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

1 「水銀に関する水俣条約」の早期発効と水銀含有廃棄物の国内適正処理体制の確立を求める意見書(案)について

<立花委員長>

委員会として意見書案の提出をどうするか。

<藤本委員>

国で水銀に対する法整備を行う必要がある。今定例会で意見書が提出できればと考える。

<井上委員>

今定例会で提出できればと考える。

<眞継副委員長>

前回の委員会では、本市での水銀含有物の取り扱いが把握できていないとのことであった。その点について整理する必要がある。

<苗村委員>

回収方法は埋立てとされており、蛍光管は現在販売されている現状である。意見書は本市の取り組みと、国に対する法整備を求める内容であり、今定例会で意見書が提出できればと考える。

<酒井委員>

意見書は何が課題かを理解した上での提出が望ましい。委員会での議論や、担当課と意見交換を行い、どうしていくのか共通理解をした上で意見書の提出が望ましい。

<立花委員長>

水銀の取り扱いについて担当課に確認をした。割れた蛍光管など不燃物に入っている場合は埋め立てをしている。水銀体温計は分別していないので、不燃物に入っている可能性がある。

<藤本委員>

本市では、どれくらいの蛍光管が廃棄され、何パーセントが埋立てされているのか把握することが大事である。国に対する意見書の提出と並行して、本市に対する改善を求めているどうか。

<西口委員>

意見書を提出する以上は、本市で適正に処理を行うべきである。現在のようなあいまいな状況では、処理できていないのに何を言っているのかということになる。一定の方向性を示すべきである。

< 眞継副委員長 >

前回は委員会発議できない結果で、12月定例会まで委員会で研究を行う必要があると感じた。どこまで取り組めるのかは別として、現状把握や所管課と意見交換を行わないと委員会発議はできないと考える。

< 竹田委員 >

意見書の内容は別として、過去に委員会で水銀について議論がされていない。委員会発議で提出するならば、委員会でしっかりと議論を行うべきである。

< 酒井委員 >

西口委員、竹田委員、眞継副委員長と同意見である。国に対する意見書と本市がどのように取り組むのかは別だとしても、現時点では不十分である。今後、理解を深めたい。

< 立花委員長 >

今定例会で意見書の提出をしない。委員会での議論や所管課と意見交換等を行った上で、12月定例会に意見書が提出できればと考える。

< 全員了 >

散会 ~ 10 : 22